輪

November 2021
vol.83

Kitakyushu Municipal Medical Center Communication Paper

ご自由にお持ちください

2023年、北九州市立医療センターは誕生150周年を迎えます。

150th 2023 ANNIVERSARY 市民とともに Since 1873

がん特集①
食道がんについて

がん特集②
心療内科について

FOCUS
特定行為研修を修了した認定看護師

写真提供：北九州市（平尾台：小倉南区）

地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立医療センター

ドクター

妊婦さんと新型コロナウイルス感染症

髙島 健 たかしま たけし

総合周産期母子医療センター
センター長／統括部長

第5波では残念ながら多くの妊婦さんが新型コロナ感染症にかかってしまいました。第4波までは感染した妊婦さんは無症状や軽症であっても入院管理を行うことができていましたが、第5波では感染爆発により、妊娠末期を除くほとんどの妊婦さんは、ホテルでの療養も叶わず、自宅療養を余儀なくされました。

デルタ株の感染力は強力で、従来株に比べると家庭内感染が高率に起こります。妊婦さんがいくら気をつけて生活していても、夫や同居家族から感染していました。感染者が近くにいると感染を防ぐことは容易ではありません。

感染を予防するには、マスクを正しく着用したうえで、こまめな手洗いや換気を行い、人との距離を保つことなどがもちろん重要です。第5波では会食や飲酒時にマスクを外して会話を行ったことが感染を拡大させました。妊婦さんの場合、夫や同居家族の方がマスクを外した状態で会話を行わないということが妊婦さんの感染予防にとても重要です。ワクチン接種は感染予防や重症化予防に有効ですので、積極的に考慮してください。

※本紙では撮影用にマスクを外しています。

標榜診療科一覧

内科	精神科	内分泌・糖尿病内科	乳腺外科	胆のう外科	リハビリテーション科	皮膚科	放射線科
肝臓内科	呼吸器内科	緩和ケア内科	内分泌外科	膵臓外科	脳神経外科	泌尿器科	病理診断科
血液内科	消化器内科	小児科	大腸外科	食道外科	呼吸器外科	産婦人科	救急科
感染症内科	循環器内科	外科	肛門外科	胃腸外科	心臓血管外科	眼科	麻酔科
心療内科	腫瘍内科	消化器外科	肝臓外科	整形外科	小児外科	耳鼻咽喉科	歯科

《基本理念》

わたくしたちは公共的使命を自覚し
心のこもった最高最良の医療を提供します

《基本方針》

1. 患者さんの権利　個人情報を保護し
   患者さんの立場に立った医療を行います
2. 十分な説明と同意による信頼関係のもとに
   患者さんが満足できる医療を行います
3. 安心かつ安らぎが得られる質の高い医療をめざし
   安全管理を徹底します
4. 常に研鑽して最高水準の医療知識・技術を習得し
   あわせて温かい心を持つ医療人をめざします
5. 地域における役割を自覚し
   地域の医療機関とともにその責務を果たします
6. 合理的かつ効率的な病院経営に努めます

当院は「がん診療連携拠点病院〈高度型〉」に指定されています。質の高いがん医療を提供することはもとより、地域医療との連携協力体制の構築や、がん患者さんやそのご家族に対する相談支援や情報提供を行っています。「輪」では毎号、がん特集を掲載し、がんの治療のみならず、連携や支援等の活動もご紹介しています。当院での診療の特徴を知っていただくことにより、がん患者さんにとって安心して治療を受けられる病院であり続けたいと思います。

新型コロナウイルス感染症に対してはワクチン接種率がずいぶん上がってきましたが、年末には第6波が起こると予想されています。マスクなしでの会話をごく短時間でも行うと感染が容易に成立してしまいます。ウイルスの排出は発症する2日前から起こりますので無症状であっても感染者であるかもしれません。日常のこまめな注意で、感染させない・感染しないということを心掛けましょう。

コロナで日常生活がずいぶん様変わりしてしまいましたが、秋は夕暮れと申しますので、夕暮れの風景をぼんやり眺めて自然を感じてみてはいかがでしょうか。

広報誌「輪」編集長　髙島　健

地方独立行政法人 北九州市立病院機構
北九州市立医療センター

輪 November 2021 vol.83

〒802-8561　北九州市小倉北区馬借2丁目1番1号
TEL.093-541-1831（代表）
FAX.093-533-8693
https://www. kitakyu-cho.jp/center/
◎発行日：2021年11月1日

ホームページ　フェイスブック　インスタグラム

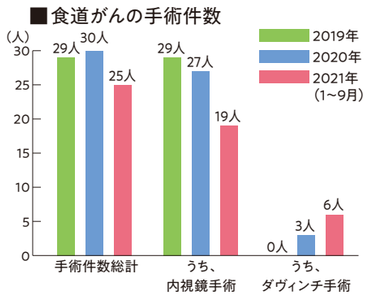
がん特集①

食道がんについて

食道がんは、年間に25,000人以上の方が罹患し、現在も増加中の病気です。その発生の要因は主に喫煙と飲酒といわれています。生存率も他の消化器がん(胃がんや大腸がん)と比較して悪いのが現状です。この原因は食道がん自体が頚部～腹部まで広い範囲のリンパ節に転移しやすいため、進行してみつかることが多く、手術は食道を切除するために胸部だけでなく頚部～腹部までを操作しなければならず、体への負担が大きいということなどにあります。

食道がんの治療は、非常に早期の場合、内視鏡(胃カメラ)での切除が可能ですが、それ以外の方は、手術(食道切除)もしくは化学放射線療法(抗がん剤と放射線治療の組み合わせ)のどちらかとなります。治療にあたるのも外科・消化器内科・放射線科・腫瘍内科・耳鼻咽喉科などの複数の診療科にわたり、負担の大きな治療になるので看護師や薬剤師、理学療法士など多くのスタッフとチーム医療で治療を行っていく必要があります。

外科では主に手術を担当しています。化学放射線療法よりも手術の方が術後の生存率が高いと言われており、手術に耐えられるお体の患者さんには積極的に手術をお勧めしています。年間30例程度の食道切除術を行っており、基本的に全例で全身への負担の少ない鏡視下手術を行っています。鏡視下手術とは10ミリ程度の傷を数ヶ所設け、そこからカメラ(腹腔鏡や胸腔鏡)で内部を観察しながら行う手術で、体壁の破壊が少ないため負担が少なく、術後の回復が早いことがわかっています。しかし、食道がんの治療は多くの場合、手術のみならず化学療法や放射線療法との組み合わせで行う集学的治療となりますので、手術による合併症を起こすと患者さんの生活の質(ＱＯＬ)を大きく損なうだけでなく、治療が滞ることで余命にも影響が出てしまいます。鏡視下手術は従来の開胸・開腹手術と比較して患者さんの負担を減らすことができますが、合併症が起きてしまうとメリットが損なわれてしまいますので、できるだけ少なくすることに治療にあたっています。



現在の医療では、食道がんの治療成績は決して満足のいくものではありませんが、近年新規の薬剤(免疫チェックポイント阻害薬等)やロボット支援手術などの登場で治療成績は向上していくことが期待されます。しかしながら、治療にはメリット・デメリットが必ずありますので、できるだけわかりやすく病状や治療の選択についてご説明し、ご同意いただいた上で治療に臨むようにしています。担当医やご家族、かかりつけの先生とよく話し合っていただくことが大切です。また、食道がんに限らず、病気は予防と早期発見が大切です。過度の飲酒や喫煙はできるだけ控え、定期的な胃カメラ等の検診を受けられることを強くお勧めします。

食道・胃外科 主任部長

小林 毅一郎(こばやし きいちろう)

一般的に患者に負担が大きいと言われている食道がんや胃がんなどの手術において、早期の社会復帰が可能となるよう、ダヴィンチなどの手術支援ロボットを使用した体に負担の少ない安全な手術に取り組んでいます。

専門医等：日本消化器外科学会専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医
所属学会：日本消化器外科学会/日本内視鏡外科学会など
好きな言葉：「いつでも笑顔で」

がん特集②

心療内科について

心療内科 医師
権藤 元治

臨床心理士
兵頭 憲二

皆さん、こんにちは。心療内科主任部長の福留です。がん特集の記事になぜ心療内科が？と思われる方もいらっしゃるかと思いますが、今回はがん診療における心療内科および精神科の役割についてご紹介させていただきます。

がんを患った際に生じる苦痛には、痛みや倦怠感などの身体的苦痛の他に、不安やいらだち、気分の落ち込みなどの精神的苦痛、仕事や家庭生活に影響を及ぼす社会的苦痛、自分の存在や生きる意味を問うことに伴う苦痛（スピリチュアルペイン）など多様な苦痛があります。

精神的苦痛やスピリチュアルペインが強いと、全般的なＱＯＬ（生活の質）の低下や治療意欲の減退、ご家族の気持ちのつらさも強くなるなど、がんの治療においてさまざまな悪影響があると言われています。患者さんが安定して治療を継続するためにもそのケアが必要であり、心療内科や精神科がその役割を担っています。

当院には心療内科医2名、精神科医2名（常勤医は1名）、臨床心理士1名が在籍しており、いずれもがん治療をサポートする緩和ケアチームのメンバーです。緩和ケアチーム内では、患者さんの情報を共有しており、精神面のサポートが必要と考えられる患者さんには心療内科医や精神科医、臨床心理士が担当となり、支持的精神療法（患者さんのお話を傾聴して、気持ちの整理をするお手伝いをする）や必要に応じて薬物療法を行っています。

また、緩和ケアチームでの介入だけではなく、がんの治療中に不安や気分の落ち込みが強くなった患者さんについても、主治医の先生からの紹介で心療内科に受診してもらい、精神症状についての加療を行っています。気持ちのつらさとは違いますが、手術後などに生じる「せん妄」という意識障害については主に精神科医が対応をしています。

精神面のサポートを必要とする患者さんの中には、「みんな頑張っているのに、自分は気持ちが弱いのではないか？」と悩まれる方もいらっしゃいますが、先に示した通り、がんを患った際にはさまざまな苦痛が生じ、気持ちがつらくなるのは当然の反応と言えます。ある調査では、がん患者さんの約50％の方がケアを必要とする精神症状を有すると報告されています。ほとんどの方は適応障害という状態ですが、適応障害が長引くとうつ状態などに移行することも多く、早期の介入が重要です。心療内科や精神科に受診することは抵抗があるかもしれませんが、がんの治療中に気持ちのつらさを感じられた患者さんは、まずはご相談ください。

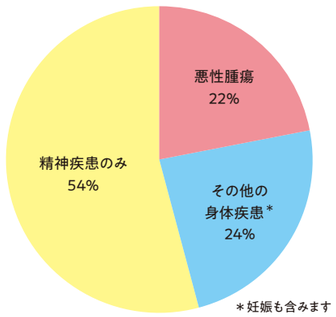
心療内科 主任部長

福留（ふくどめ） 克行（かつゆき）

症状の原因（ストレッサー）を探りながら、個別の対処法を考えていく精神療法（カウンセリング）を主に当院外来にて診療を行っています。

所属学会：日本心身医学会/日本うつ病学会
好きな言葉：「しあわせはいつもこころがきめる」

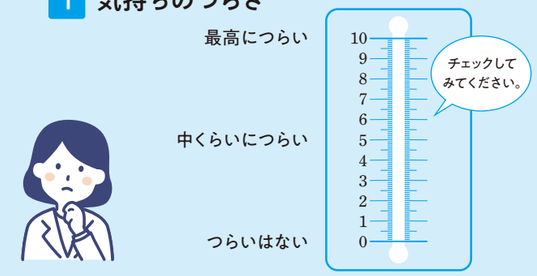
2020年度心療内科新患において身体疾患の影響を受けていた患者の割合



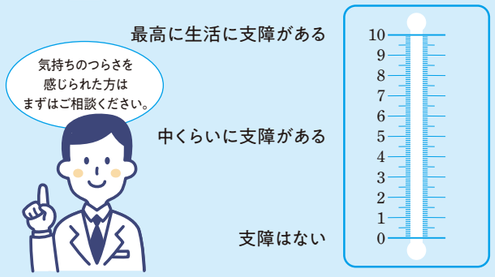
＊妊娠も含みます

つらさと支障の寒暖計（1週間を平均しての点数）

1 気持ちのつらさ



2 気持ちのつらさによる生活の支障



コメディカル紹介

薬剤課

課長 坂本（さかもと） 佳子（よしこ）

診療支援部薬剤課は薬剤師32名、調剤補助者3名で業務を行っています。「薬のあるところには、薬剤師がいる」が目標です。調剤室・注射室での調剤、外来化学療法センターでの抗がん剤無菌調製と服薬説明、一般病棟での薬剤管理指導業務、がん薬剤師外来、患者支援センター、抗菌薬適正使用支援チーム、医療安全、治験業務など、薬剤師を各所に配置しています。

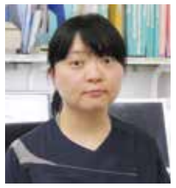
当院は地域がん診療連携拠点病院〈高度型〉であり、外来化学療法センター開設時より、抗がん剤治療において、レジメン管理、無菌調製、服薬説明に力を入れてきました。2019年4月からは外来患者さんの内服がん薬物療法への関与を目的にがん薬剤師外来を別館2階に開設し、近隣の保険薬局薬剤師と協力して、外来での安全で効果のあるがん薬物療法の提供を目指しています。がん薬物療法の専門資格取得者4名が中心となっています。

11病棟あるすべての一般病棟に病棟専任薬剤師が常駐して、医師や看護師をはじめとする多職種と協力し、入院患者さんの薬物療法の管理や服薬説明を行っています。患者支援センターでは入院前に、手術予定患者さんの服用薬やサプリメントを確認し術前中止などの説明を行い、退院支援カンファレンスへの参加で退院後の薬物療法を考えます。

緩和・糖尿病・NST（栄養サポート）・リウマチの専門資格を持つ薬剤師もおり、緩和薬物療法、がん薬物療法については、専門薬剤師の研修施設です。

これからも、薬物療法を有効・安全に行えるよう、専門性を高め、チーム医療で力を発揮していきたいと思います。

調剤室・注射室



AST

薬剤師外来・抗がん剤調製室

病棟専任薬剤師

FOCUS

特定行為研修を修了した認定看護師

看護師特定行為とは、2015年に保健師助産師看護師法が改正され、これまで医師が行っていた医療行為の一部を、特別な研修を受けた看護師が手順書を元に医師と同等に行える制度です。当院は2020年度から研修への派遣を開始し、現在3名在籍しています。

クリティカルケア認定看護師　増居 洋介（ますい ようすけ）

クリティカルケア認定看護師の増居です。昨年度、看護師特定行為研修を受講させていただき、18行為を修了いたしました。

看護師特定行為は、診療の補助の範囲でタイムリーに医療の提供ができるため、患者と医師・看護師の負担を軽減します。

そのため、特に急性期に特化した特定行為では、各診療科からのニーズが高まっています。安全を第一に、特定行為がチーム医療において貢献できるよう日々研鑽しておりますので、今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

皮膚・排泄ケア認定看護師　辰島 美和（たつしま みわ）

私は2010年に皮膚・排泄ケア認定看護師を取得し、2018年から連携病院への褥瘡ラウンド、2019年には認定看護師の同行訪問（在宅患者訪問看護・指導料3）を開始しました。2021年6月には創傷関連特定行為研修を修了し、医学的知識・技術を学ぶことができました。

今後は安全で質の高い医療・看護を効率的かつタイムリーに提供することにより、患者さんの早期回復やQOLを向上できるように活動していきたいと思います。

クリティカルケア認定教育課程修了者　隈本 兼多（くまもと けんた）

2020年度のクリティカルケア認定看護師教育課程で特定行為研修を修了しました。

私は今回、呼吸および循環器、栄養、水分管理の11行為を取得しました。医師の包括的指示の下に患者さんの病態の緊急度・重症度を判断し、特定行為を迅速かつ安全に実践をして、重篤化の回避に努めていきたいと思います。患者さんが満足できる治療が受けれるように、これからも日々研鑽し、心温まる看護を提供できるように精進していきます。

■提供可能な特定行為

行為	増居	辰島	隈本	行為	増居	隈本	行為	増居	辰島
高カロリー輸液の投与量の調整	○	○	○	Na、K、Clの投与量の調整	○	○	中心静脈カテーテルの抜去	○	−
脱水症状に対する輸液による補正	○	○	○	降圧剤の投与量の調整	○	○	PICCの挿入	○	−
侵襲的陽圧換気の設定の変更	○	−	○	糖質輸液または電解質輸液の投与量の調整	○	○	低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及び設定の変更	○	−
非侵襲的陽圧換気の設定の変更	○	−	○	利尿剤の投与量の調整	○	○	胸腔ドレーンの抜去	○	−
人工呼吸管理中の鎮静剤の投与量の調整	○	−	○	気管チューブの位置調整	○	−	褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	−	○
人工呼吸器からの離脱	○	−	○	直接動脈穿刺法による採血	○	−	創傷に対する陰圧閉鎖療法	−	○
カテコラミンの投与量の調整	○	−	○	橈骨動脈ラインの確保	○	−	創部ドレーンの抜去	−	○

TOPICS

産婦人科がロボット支援手術(ダヴィンチ)開始しました!

産婦人科 主任部長
兼城 英輔 かねき えいすけ

当院では令和元年9月に、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入し、これまで泌尿器科・外科で「ダヴィンチ」による手術を実施していましたが、令和3年8月より産婦人科も「ダヴィンチ」による子宮全摘術を開始しました。

「ダヴィンチ」は、低侵襲技術を用いて複雑な手術を可能とするために開発された手術支援ロボットで、手術器具(電気メス等)をドッキングしたロボットを、医師が操作して手術を行います。腹腔鏡手術と同様に、傷が小さいため術後の痛みが少なく、早期離床・退院が可能で、社会復帰が早いという低侵襲手術であり、加えて高画質で立体的な3Dハイビジョンシステムの手術画像を見ながら、人の手首よりはるかに大きく曲がって回転する手首を供えた手術器具を使用し、精緻な手術操作を正確に行うことができます。実際、手術を受けられた患者さんは、術後4-5日で退院され、術後の生活・運動の制限もほとんどないことから、患者さんからも非常に好評です。

産婦人科領域では現在、子宮良性腫瘍、初期子宮体がん、骨盤臓器脱(子宮脱)に対するロボット支援手術が、一定の施設・術者基準を満たした施設でのみ保険適応となっています。当院では子宮良性腫瘍(子宮筋腫、子宮腺筋症など)対する子宮全摘出術が保険診療の対象で、今後対象疾患を順次拡大していく予定です。

■ダヴィンチによる手術実績(2019年11月~2021年9月)

診療科	症例	件数(累計)
泌尿器科	前立腺全摘除術	73件
	腎部分切除術	38件
	腎盂形成術	6件
	膀胱全摘除術	7件
外科	胃切除術	40件
	直腸切除・切断術	49件
	食道悪性腫瘍手術	8件
産婦人科	子宮全摘術	5件

新任 医師紹介

2021年10月より着任いたしました。
よろしくお願いいたします。

救急科
鍋田 祐介
なべた ゆうすけ

耳鼻咽喉科
西山 和郎
にしやま かずお

産婦人科
田中 桜子
たなか さくらこ

小児科
泊 由里子
とまり ゆりこ

病院のかかり方

オンライン資格確認システムについて

10月20日よりマイナンバーカードによるオンライン資格確認の運用を開始しました。

オンライン資格確認とは、医療機関や薬局で、マイナンバーカードを利用して保険資格の確認ができる仕組みです。従来のように窓口で保険証を預かり、受付スタッフがシステムに入力するのではなく、患者さん自身が専用のカードリーダーで顔認証とマイナンバーカードをかざすことにより、保険資格の確認ができます。

また、これまで患者さんに申請手続きいただいておりました限度額認定証については、カードリーダーに情報提供に同意することで、申請不要となり、窓口提示の必要もなくシステム上で確認ができます。

オンライン資格確認は支払基金・国保中央会のシステムと繋がっており、その場で正確な保険資格を確認することが可能となります。

また、これまでの窓口での患者基本情報の入力と確認の手間が省略され、会計待ち時間の短縮に繋がります。診察予約されている患者さんの保険資格が有効か、保険情報が変わっていないかを事前に把握することもできます。

マイナンバーカードは郵送のほかパソコンやスマホから申請することできます。

詳しくは地方公共団体情報システム機構(J-LIS)のホームページ:マイナンバーカード総合サイト(https://www.kojinbango-card.go.jp/kofushinse/)またはお住まいの市町村にお問い合わせください。

専用カードリーダー

連携病院のご紹介

医療法人社団 天翠会

小倉きふね病院

所 在 地　北九州市小倉北区貴船町3番3号
電話番号　093-941-4550　FAX：093-922-7461
診療科目　内科、消化器科、呼吸器科、耳鼻咽喉科、
アレルギー科、整形外科、リハビリテーション科
専門外来（糖尿病・循環器・神経内科）

診療時間　＊土曜日は9：00~12：15

	月	火	水	木	金	土	日
9：00~11：45	○	○	○	○	○	○	×
14：00~17：00	○	○	○	○	○	×	×

＊受付時間につきましては診療科によって異なります。
当院ホームページよりご確認ください。

院長　松井 豊 先生

貴院のご紹介をお願いいたします

平成30年12月に小倉きふね病院として新築移転を行いました。来年度には旧松井病院の開設から創立50周年を迎えます。

新病院は3病棟99床で構成する回復期型病院です。各病棟とも明るく余裕のある療養環境を確保しています。各診療科には専門の常勤および非常勤医師を配置し、外来・入院ともに質の高い診療を提供しています。

急性期病院、地域の診療所様および介護施設等からのご紹介には迅速に対応できる態勢を整えています。

地域の方、患者さんへメッセージをお願いします

地域の皆様のニーズに沿った医療・介護サービスをきめ細かく提供できるよう、小倉きふね病院を中心に介護施設、有料老人ホーム、整形外科スポーツクリニックなどの関連施設と連携して取り組んでいます。

新築移転から3年経過しました。まだまだ未熟な点も多々あると思いますが、地域において必要な病院・施設として認められるよう、これからも努力していく所存です。皆様のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

患者支援センターだより

外来診療体制の変更のお知らせ

北九州市立医療センターでは、より多くの皆さんに安心して医療を受けていただけるよう、下記の診療科の外来体制を下記のとおり変更いたしますのでお知らせいたします。

耳鼻咽喉科・皮膚科

2021年10月1日よりこれまで外来診療をしていなかった**火曜日も診療を開始します**ので、ご紹介くださいますようよろしくお願いいたします。

【変更後】

月曜日	診療
火曜日	**診療**
水曜日	診療
木曜日	診療
金曜日	診療

今後も地域支援病院として地域の先生方との連携を図り、多くの患者さんにより良い医療を提供できるように努めてまいります。

※初診の患者さんは8：00~11：00の受付となっています。
予約時間の30分前に1階初診受付へ紹介状、健康保険証、各医療証、お薬手帳、画像データ等をご持参ください。

［お問合せ先］医療連携室　TEL 093-533-8660　受付時間：8：30~17：00
予約時間：8：30~18：30

萬納寺医院

所 在 地　北九州市小倉北区竪町2-5-7
電話番号　093-561-3456
診療科目　内科、小児科、皮膚科

診療時間（内科・小児科）

	月	火	水	木	金	土	日
9：00~12：30	○	○	○	○	○	○	×
14：00~19：00	○	○	○	○	○	×	×

診療時間（皮膚科）

	月	火	水	木	金	土	日
9：30~12：30	×	○	×	×	○	×	×
14：00~19：00	×	○	×	×	○	×	×

※土曜日は9：00~13：00

Q 貴院のアピールポイントを教えてください

A 当院はこの土地で70年以上の地域医療を行っております。理念は「家族全員が通うことができ、包括的な医療を提供していく」です。年齢、疾患を問わずさまざまな悩みにお応えできるよう、日々診療を行っております。内科、小児科、皮膚科を併設しているため、複数の医療機関を受診せず完結できることが当院の利点と考えております。

Q 市立医療センターへのメッセージをお願いします

A 診療科を問わず診断が困難な方、早急な精査が必要な方の受け入れを迅速に行っていただき誠に感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。

院長　萬納寺 聖仁 先生（内科・小児科）　副院長　萬納寺 倫子 先生（皮膚科）

登録医のご紹介

高城循環器内科医院

所 在 地　行橋市大橋3-3-13
電話番号　0930-22-0221　FAX：0930-25-4800
診療科目　循環器内科、内科、小児科
診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9：00~12：00	○	○	○	○	○	○	×
14：00~18：00	○	○	○	○	○	×	×

※受付時間は17：30まで

Q 貴院のアピールポイントを教えてください

A 開業医としての自分のなすべき仕事は、地域の方々のニーズに可能な限り応えることと考えています。高血圧、冠動脈疾患、不整脈や心不全などの循環器疾患に加えて一般内科や小児のプライマリーケアも行っています。

Q 市立医療センターへのメッセージをお願いします

A 専門的医療を必要とする患者さんは速やかに高機能病院での診断や加療をお願いしており、北九州市立医療センターには大変お世話になっております。今後ますますのご発展を祈念しています。

院長　高城 喜典 先生